大隅・大根占町の柴祭りとそのシバニ関する一考察

―昭和五十九年正月実修の事例報告を中心に―

川野和昭

一、はじめに

肝属郡大根占町の内陸部では、池田地区を中心に、同地の旗山神社及び同町安水にある立神神社をめぐって、「タウチ」「シバ祭り」と呼ばれる正月祭事が行われる。

この祭りは、昭和三十九年二月に、私家版として刊行された小野重朗氏の『南九州の柴祭と打植祭の研究』（同年柳田国男賞受賞）によって、民俗学者たちの知るところとなったものである。

小野氏は、南九州の他の地に伝承されている十九例の柴祭の事例の比較のもとに、この柴祭が、「神（シバノカミ――註筆者）が、部落の人々に猟のやり方を教え、また許可する行事」を第一目的として、野火の始め（陸稲や粟を主作物とした畑作農業の始め）、臼の使い始め、歌のうたい始めなど、生活の中心となることを「柴の神が自ら行なうことによって教え示され、行なうことを許可される」祭りであるとされた。

この小野氏による柴祭の研究は、以後、千葉徳爾氏①や佐々木高明氏②などによって大きくとりあげられ、日本の狩猟文化及び「稲作以前の文化伝統」を明らかにしていく上で貴重な正月祭事として位置づけられている。

筆者は、昭和五十四年、同五十八年、五十九年の三回にわたり、この祭りを見る機会を得ることができた。特に昭和五十九年の祭りは、鹿児島県歴史資料センター黎明館の、十六ミリフィルムによる記録映画の撮影に立合ったことにより、極めて綿密なノートを執ることができた。

また、ショウホイ（旗山神社の宮司にあたる）の、前迫文哉氏の御厚意で、この祭りを含めて旗山神社のショウホイが行なう神事の内容が記された「神社神事工事」を複写することができた。この「神社神事工事」は、同氏の父君で先代の前迫平吉氏が、昭和四十三年正月、柴祭りを初めとして、種々の神事の行く末を案じ、子息文哉氏の手引き書として記されたものである。そこに記されている柴祭りの内容は、祭りの進行の順に従って、行なうべき事を詳細に記してあり、柴祭りを理解する上に大いに役立った。

そこで今回、この三回にわたる調査による記録と「神社神事工事」とをもとに、昭和五十九年度に実修された事例について、日時を追いながら、この祭事の内容を可能な限り忠実に、再現を試みた。その結果、従前の小野重朗氏の事例「A⑪　大根占町城元・池田の正月祭」③と若干の異同があることが理解できた。特に、祭りの中心となる「シバ」の動き働きについては、今少し追加の解説が必要であると考えられる。

また、この祭りの中で行なわれる「事始め」の内容についても同様の必要性があると考えられる。

本稿では、これらの点について、昭和五十九年正月に実修された祭りの事例報告を中心に、若干の考察を試みたい。

二、昭和五十九年実修事例

十二月三十日

〔池田〕

9:00 シバキリ

○半ヶ石のウルシヤマという所に川北の南正一郎氏外二名で出かけて三十本程のシバを切る。往路、復路は自動車を使用する。このシバは、榊の柴で、鳥居、本殿、本殿の渡り廊下の二本の柱に飾るシバ、三日の朝の若水汲みに用いるシバ、オノサオ、ヤマンカシンシバがかかる拝殿の五本の柱に結ぶシバ、三日（コノサカ、二のシバ）、四日（一のシバ、二のシバ、三のシバ、高尾）に持っていくシバである。神主の家の門口のシメを張るコサン竹二本も切る。

○このシバキリは、川南と川北がシメナワ作りと交替に行なう。

10:00 ○旗山神社に帰り、拝殿にシバを置いてシバキリ終了。

十二月三十一日

〔池田〕

7:00 ○池田の部落の人々、神社の周囲の掃除を行なう。

8:00 シメオロシ

○ゴニシグミ（神主一人、伶人四人。このうちの一人は段ヨシヤ氏が死亡したのち跡継ぎなしにより欠）が神社に集まり、シバ、シメナワを飾る。

○シメナワは鳥居、拝殿の入口、本殿の二つの社、拝殿左に祀ってある小祠（もとは、楠の大木の小祠と道をはさんで対称する場所に祀ってあった）楠の大木の洞の中に祀られた小祠、神主の家の門口に飾る。

○昨日とってきたシバのうちから、鳥居の根本に左右二本、拝殿から本殿への渡り口の左右二本の柱、本殿の二つの社の前に供える。

11:00 シバフセ（写真3）

○神主は、昨日ウルシヤマから取ってきたシバを本殿の社の左脇に、葉の裏を見せるように伏せる。伏せるシバの数は、オノサオとヤマンカンシバがかかるカカリシバ五本と、三日に用いるコノサカ、鳥越へ越える二のシバという所の分、各二本づつと、山の神の絵姿を張るためのもの二本の計六本と、四日に用いる一のシバ、二のシバ、三のシバ、高尾神社の分、各二本づつの計八本である。それをそれぞれ、三束にまとめて伏せる。

〔安水〕

10:00 タヅクリ

○安水部落の草分けの一軒であり、立神神社の守りを昔からしている安水家の当主である安水茂徳氏が、立神神社に鍬と鉈を持って行く。往復は自動車。

○立神神社では、竹とゆずり葉を切り、竹の根株の花筒に飾る。

○タヅクリと称して、前庭を時計回りに三回まわりながら、鍬で土

を中央に切り上げ、土盛りを作る。以上を済ませて帰る。

オトト（尊いの意で神様をさす）のかかる場所作り

○安水茂徳氏、安水のウッガンヤマの中に立っている小さな榊の木の根元にシラスの盛土を作る。

〔白水〕

オトトのかかる場所作り

○白井政吉氏　自宅（門松より外側）の木戸口に、シラスの盛土を作り、そのまわりに榊の柴をたてまわす。

一月二日

〔池田〕

9:13 ショウホイの家を出発

○ショウホイ、伶人（木下辰二、仮屋栄光）連れ立ちて、川北の前迫直義（この人も伶人）氏の家へ出発。

9:20 前迫直義宅へ到着

○前迫直義氏は押領司ケイゾウ氏が、ゴニングミを辞めてから跡を継いだが、このオトトの一行はそれ以前から来ていた。前迫家では、直義氏と実弟の押領司盛義氏がテイブイ（接待役）として座につき、一行を迎える。

9:25 お茶が出る。お茶受け干柿

9:35 お膳が出る。

○ニシメ（豚肉、大根、人参、牛蒡、蓮根、竹の子、キヌサヤ）、サシミ（鰤、数の子、大根の酢のもの）、スイモノ（豚肉、豆腐、オヤシ、カマボコ、キヌサヤ）、マメ（甘納豆）、クダモノ（密柑、パイナップル）

9:40 サンゴンサカヅキ

○直義氏が、床の間に置いてある三段重ねの杯の一番上の杯で飲み、ショウホイ、伶人（木下、仮屋）の順で直義氏と相互に取りかわす。中味は地酒である。

○その後、焼酎をやりとりしながらお膳を共食する。

9:59 クシオコシ（写真4）

○直義氏、ショウホイ、伶人（木下、仮屋）、押領司盛義氏、直義家の女の人達の鏡を手にもち、櫛で髪をすき、剃刀で顔をあたる。これは、安水のタッガン（立神）へヨメジョ（嫁女）を貰いに行くためにきれいにするといい、「クシガオキル」「カミソリガオキル」といって、これ以降、池田の人々は櫛や剃刀を使い始める。

10:06 立神神社へ出発

○オトトの一行、立神神社へ出発する。昔は歩いて行ったが、今は自家用車で行く。

10:27 タッガンの河原到着

○前迫直義、仮屋栄光氏、河原にて、ハナに使うカワヤナギの枝を十六本切る。

10:32 神川を渡り立神神社に到着（写真5）

ホウキガオキル

○立神神社には、安水茂徳氏をはじめとする安水の人達が来て火を焚きながら、神社の清掃を行なっている。

安水、白水両部落では、安水の人達がここで箒を使ったら「ホウキ

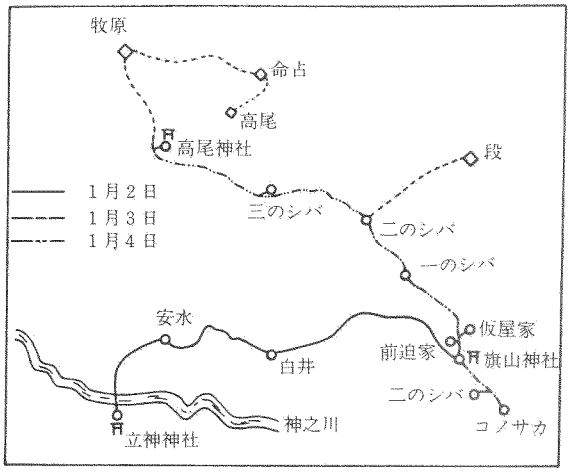
ガオキル」と言って、各家々でも箒を使い始めてよいという。

10:35 クワキリ

○安水の青年の一人は、神社の裏手の山で木の枝の又木を切り、子供たちが田打ちに使う鍬を作る。

タッガンキリ

○安水茂徳氏が、タッガンサァーを勧請する榊の柴を、神社の裏手の山で切る。また、種蒔きのときのカシキ（緑肥）にする榊も切る。



祭祀場所附図

シメナワツクリ

○安水の人達が、タッガンサァの社の入口をしめるシメナワ一本（左縄）、本殿をしめるシメナワを一本（左縄）をねる。伶人がそれを張る。

タッガンサァーヅクリ（写真6）

○ショウホイは、先に安水茂徳氏が切った榊に、幣と麻の緒を飾りつけ、タッガンサァーを作る。

11:15 神事開始

○ショウホイは、タッガンサァーを本殿に立て掛け、安水の各家々から奉納された焼酎、白米、餅、一夜漬（大根、人参、生姜を酢で一夜漬けたもの）などの供物を神前に供えて、祓、大祓の祝詞を奏上し、さらに祝詞を奏上、タッガンサァーのシバに神を勧請する。

11:30 タウチ（写真7）

○ショウホイ、伶人（木下、前迫、仮屋）の順で拝殿を出て、前庭の田の脇に並び次の順で進める。カシキの柴を手に持つ。

○ショウホイが次の祝詞を唱え始めると、子供達は田の周囲を時計回わりにまわりながら、木の枝の鍬で土をかき上げながら中央に盛土を築く。

サイハイ　サイハイ　オソレウヤマッテモウス　メグリキタル
トシツキネンゴウ　モウシタテマツレバ　ショウワゴジュウキュ
ウネン　ネノトシ　ジツゲツノ　ナラビガ　ジュウニカンゲツ
オオヨソヒノカズ　サンビャクロクジュウゴカンジツニ　アイア
タリソウロウ　ナナジジツゲツガ　オオキナカニ　コンゲツコン
ニチ　キチジツニ　タチガミロクシャノ　カミノ　ソウロウヲ
モウシタテマツレバ　カミトウマキガ　センチョウブ　チュウト
ウマキガ　センチョウブ　アワセテニセンチョウブノ　オンタヲ
コンゲツコンニチ　キチジツニ　ウッタリ　ヨンダリ　シモウス
ガタメ　ミトンド　ミトンド

○次にショウホイの歌い出しで、次の歌を伶人とで合唱する。その間子供達は、盛土の中央を手で堀り、窪みをつくる。

アラタマル　トシノハジメノ　カドマツハ　キミニチトセハ　ユ

ズリハノマツ　アラタマル　トシノハジメノ　ハツマイリ　ヨロコビアレゾ　ツギヤミヤビト　アラタマル　トシノハジメニ　フデトリテ　ヨロズノタカラ　ワレゾカキゾム

○歌が終わると、ショウホイ、伶人が子供達に「ヤレウッタイ　ウッタイ」と掛け声をかけ、逃げると子供達は、盛土の土を、ショウホイ、伶人、さらに周囲の大人達に投げかける。大人達は「セイ、セイ（左へ左へ）」とか、「オー、オー（止まれ、止まれ）」と、牛使いの掛け声をかける。それが終わると、ショウホイ、伶人、大人達は「良くしこまれている。」などと言いながら、元の位置にもどる。

○再びショウホイ、伶人が次の歌を歌う。子供達は腰を下ろしている。

ハルクレバ　イデニサザナミタチワタル　ナハシロミズハ　オノガヒキビキ　ウグイスハ　マダコノウチニ　オルゾカヤ　ハルハキタレド　オトズレモナシ　ハルクレバ　コノメモメダツ　タヅモタツ　ヤマノメダチハ　タカクナルモノ

○歌が終ると、ショウホイ、伶人、大人達は「ヤレ、ウッタイ、ウッタイ」「セイ、セイ」「オー、オー」と言いながら逃げ、子供達は土を投げかける。それが終わるとショウホイ、伶人、大人達は、「良くしこまれている」「良く打たれている」などと褒める。

○子供達は田を平らにならす。

11:41 ○ショウホイは木の枝の鍬を手に持って、六十センチ四方の田を描き、それを上・中・下の三枚の田に分ける。さらに、手に持っていた榊の葉をちぎり、カシキ（緑肥）として播く。

○ショウホイが元の位置にもどり、伶人達と共に次の歌を合唱する。

ハルクレバ　イデニサザナミ　タチワタル　ナハシロミズハ　オノガヒキビキ　ハルクレバ　コノメモメダツ　タヅモタツ　ヤマノメダチハ　タカクナルモノ　ウグイスハ　マダコノウチニ　オルゾカヤ　ハルハキタレド　オトズレモナシ　アメフリテ　サンジュウサンテンナアー　サワグトモ　ワガマクタネハ　ヨモヤサワナシ　カゼフキテ　サンジュウサンテンナァー　サワグトモ　ワガマクタネハ　ヨモヤサワナシ

11:43 ○歌い終わるとショウホイが、「フクノタネマク、トンビー、トンビー」と唱えて、種（安水の人々がタッガンサァーに供えた米）を三回播く。（写真8）

○次に、ショウホイが鳥を追うと言って、次の歌を歌う。

ホーホー　ホンガラホー　ワシノトート　トーイ　イーエデウヨッカ　ツンネブレ　ホーホー　ホンガラホー

11:44 ○さらに、次の歌をショウホイ、伶人と共に合唱する。

サンダノナエハ　フタバ　サイヨー　サイヨーナァー　フタバニナレバ　キミモ　サカエマシマス　アノナエオイセトナ　コノナエオイセトナ　サンダノナエハ　ミツバ　サイヨー　サイヨーナァー　ミツバニナレバ　キミモ　サカエマシマス　アノナエオイセトナ　コノナエオイセトナ　サイヨー　ナエモトリオサマムコモミテクレ　ワレモミテクルナリー

11:45 ○タウチ終了。直会いとなる。神社の拝殿にショウホイ、伶人、安水茂徳氏とが座して、タッガンサァーに供えられた焼酎、一夜漬け

とを供食する。安水の人達も、火のまわりでお下がりをいただく。

12:19 立神神社を出発（写真9）

○タッガンサァーを奉じた仮屋氏を先頭にショウホイ、カワヤナギの枝を持った木下氏、笛を吹く前迫氏、安水茂徳氏、安水の伴人の人達と続いて、安水部落（向かう。川岸からは自動車を利用する。

〔安水〕

12:30 安水のウッガンヤマ（山水部落のウッガンサァーとその外に四体のコジンサァーが祀されている）に到着。（写真10）

○ウッガンヤマの中に立つ一本の小さな榊の木の根本に、シラスが盛られている。その前に蓆が敷いてあり、近くには毎年宿を勤める安水茂徳氏宅から、御酒（神酒――地酒）二本と、白米が入ったビン箱が届けてある。

12:43 ○ショウホイが、仮屋氏からタッガンサァーを受け取り、シラスの盛土に立てる。これを「オトトガカカル」という。安水茂徳氏が、家から届けられたビン箱をショウホイに渡し、ショウホイは中の御酒と白米をタッガンサァーに供える。

○笛が鳴り、ショウホイ、祓いの祝詞を奏上する。

12:47 ○タッガンサァーをそのままにして、安水茂徳氏の家へ向かう。

12:50 安水徳氏宅へ到着。

○茂徳氏、部落会長、女主人が迎える。

12:55 ○お茶が出る。

12:58 ハナツクリ

○半紙を三角に折り曲げ、先に河原で採ったカワヤナギの枝と、カシキ（先に、田植の時に播いた榊の葉）と、種子（先に、種子播きの時に用いた白米と同じもの）十粒程を順に入れながら、柳の根本からぐるぐると巻き、植本を麻の緒で結わえる。

○ハナは、安水部落の戸教（十六）だけ作り、安水茂徳氏のへの床の間に供えておき、一日二十日の先祖祭りのときに各戸に配る各戸では、それを先祖棚や床の間などに飾り、家の守りとする。

13:22 タネマキハジメ（ウタハジメ）（写真11）

○ショウホイの歌い出しで次の歌を伶人と共に合唱する。

アラタマル、トシノハジメノカドマツハ　キミニ　チトセノ　ユズリハノマツ　アラタマル　トシノハジメニ　ハツマイリ　ヨロコビアレソ　ツギヤミビト　アラタマル　トシノハジメニ　フデトリテ　ヨロズノタカラ　ワレゾカキゾム　ハルクレバ　イデニサザナミ　タチワタル　ナワシロミズハ　オノガヒキビキ　ハルクレバ　コノメモメダツ　タヅモタツ　ヤマノメダチハ　タカクナルモノ　ウグイスハ　マダコノウチニ　オルゾカヤ　ハルハキタレド　オトズレモナシ　アメフリテ　サンジュウサンテンナァー　サーワグトモ　ワガマクタネハ　ヨモヤサワナシ　カゼフキテ　サンジュウサンテンナァー　サーワグトモ　ワガマクタネハ　ヨモヤサワナシ

○ショウホイ、次の唱えをし、トンビーの声に合わせて種子（先の立神の種子と同じ白米）を三回播く。

フクノタネマクー　トンビー　トンビー　トンビー

○ショウホイ、次の唱えをし、鳥を追う。

ホー　ホー　ホンガラホー　ワシノ　トーイ　トーイ　ヒエク
ヨッカ　ツンネブレ　ホー　ホー　ホンガラホー

○ショウホイの歌い出しで、次の歌を伶人と共に合唱する。

サンダノナエハ　フタバ　サイヨーナァー　フタバニナレバ　キミモ　サカエマシマス　アノナエオイセトナ　コノナエオイセトナ　サンダノナエハ　ミツバ　サイヨー　サイヨーナァー　ミツバニナレバ　キミモ　サカエマシマス　アノナエオイセトナ　コノナエオイセトナ　サイヨー　ナエモトリオサヤ　ムコモミテクレ　ワレモミテクルナリー

13:27 タネマキ終了

13:30 お膳が出る

○イモンコンスイモン（里芋――親芋三個とオヤシ）、スモン（豚、大根、人参）、大根の酢なましと鰤の刺身、マメの四品が出る。

13:35 サンゴンサカヅキ

○三段重ねの朱塗りの盃の一番上の盃で、亭主がショウホイにすすめ、ショウホイそれを返す。以下、伶人（木下、前迫、仮屋の順）も同じことを繰り返す。焼酎を互いに汲みかわす。

お膳を食べる

○イモンコンスイモンの大きな親芋を食べる。これに入っているオヤシは、十二月十三日に播いて、十二月三十一日に採ったもので、毎年正月には必ず用いるユエモンであるという。なお、この家ではお供えを下ろして食べる十一日までは、煮た餅は食べないという。

14:12 ハリオコシ（写真12）

○安水家の女主人、床の前に東向きに座して、タオルの半分を三角に折り合わせたところを縫い合わせる。その袋の口を、女主人が広げて、ビン箱の米をショウホイが入れ女主人が縫い余りの糸、袋の口をまるめて結ぶ。女主人が、その袋をショウホイへ差し上げる。この米は、この日ショウホイの家で食べるズシの米にする。これ以降、安水ではハリを使ってよいという。

14:17 ハリオコシ終了

14:20 ○安水家を出発し、ウッガンヤマのタッガンサァーを奉じ、笛を吹きながら白井へ向かう。

〔白井〕

14:35 ○白井政吉氏宅の木戸へ到着。門口の外に設けられたシラスの盛土（周囲は柴で囲ってある）に、タッガンサアーを立てる。白井家から、御酒二本（缶びん）、一升の白米、塩、のし袋（五百円と聞く）が供えられる。（写真13）

○ショウホイが祓の祝詞を奏上する（笛が鳴る）。

14:39 ○玄関より家内に入る。

15:03 ○お茶が出る。

15:11 ウタハジメ

○ショウホイの歌い出しで、次の歌を伶人と共に合唱する。

アラタマル　トシノハジメノ　カドマツハ　キミニ　チトセノユズリハノマツ　アラタマル　トシノハジメニ　ハツマイリ　ヨロコビアレゾ　ツギヤミヤビト　アラタマル　トシノハジメニフデトリテョロズノタカラ　ワレゾカキゾム　ハルクレバ　イデ

ニサザナミタチワタル　ナワシロミズハ　オノガヒキビキ　ハルクレバ　コノメモメタツ　タツモタツ　ヤマノメダチハ　タカクナルモノ　ウグイスハ　マダコノウチニ　オルゾカヤ　ハルハキタレド　オトズレモナシ　アメフリテ　サンジュウサンテンナァー　サーワグトモ　ワガマクタネハ　ヨモヤサワナシ　カゼフキテ　サンジュウサンテンナァー　サーワグトモ　ワガマクタネハ　ヨモヤサワナシ

○ショウホイだけが、次の唱えをし、トンビーの声に合わせて種子（先の、立神の種子と同じ白米）を三回播く。

フクノタネマクー　トンビー　トンビー

○ショウホイだけが、次の唱えをし、鳥を追う。

ホー　ホー　ホンガラホー　ワーシノトーイ　トーイ　ヒエクヨッカ　ツンネブレ　ホー　ホー　ホンガラホー

○ショウホイの歌い出しで、次の歌を伶人と共に合唱する。

サンダノナエハ　フタバ　サイヨー　サイヨーナァー　フタバニナレバ　キミモ　サカエマス　アノナエオイセトナ　コノナエオイセトナ　サンダノナエハ　ミツバ　サイヨー　サイヨーナァーミツバニナレバ　キミモ　サカエマシマス　アノナエオイセトナコノナエオイセトナ　サイヨー　ナエモトリオサヤ　ムコモミテクレ　ワレモミテクルナリー

15:15 終了

○これ以後、白井部落では、「ウタノクチガアク」と言って、歌を歌ってよいという。

15:25 お膳が出る

○イモコンスイモン（里芋、オヤシ）、ブタノスイモン（豚肉、椎茸、オヤシ、カマボコ）、ニシメ（里芋、大根、人参、コンニャク、つけあげ、カマボコ、竹の子、コンブ）、ブリの刺身、マメ。

15:29 サンゴンサカヅキ

○三段重ねの朱塗りの盃の一番上の盃で、亭主（白井政吉氏）が、ショウホイにすすめ、ショウホイがそれを返す。以下、伶人は、それぞれで一番上の盃で飲む。次に、焼酎を互いに汲みかわしながらお膳を食べる。

○白井部落の人々が一人、また一人と訪れる。その度に、お膳が出る。白井部落は十二戸で、年ごとのこの祭りの宿も、十二戸の輪番制でやっている。昔は安水同様に決った一軒の家が勤めた。

15:52 ナンコハジメ（写真14）

○ショウホイと亭主が、先ずナンコを始める。

○続いて、伶人と白井部落の人達とでナンコをする。これを「ナンコハジメ」と言い、これ以降は、白井部落ではナンコをしてよいという。

16:35 ハリオコシ（写真15）

○白井家の女主人が、東の方向を向いて、安水家で縫った袋の残りの片側を同じように縫い、木戸口のタッガンサァーに供えられた米をショウホイが入れ、女主人が縫い残しの白系で、袋の口を結わえてショウホイに差し上げる。この米は、ショウホイの家で、この日炊くズシに使う。これ以降、白井ではハリを使ってよいという。

16:43 ハリオコシ終了

○「ハリカオキル」と言って、これ以降、白井部落では縫い針を使ってよいという。

16:46 ○タッガンサァーの前で祓いの祝詞をあげ、旗山神社へ出発。タッガンサァーを仮屋氏が奉じ、ショウホイ、ハリオコシの袋を背負った伶人、前迫氏の順で向かう。（写真17）

17:00 ○旗山神社に到着。木下氏の打つ太鼓で、拝殿にあがり、ショウホイ、本殿の社の前にタッガンサァーを休ませる。

17:07 ○ショウホイの家へ行く

17:20 クワオコシ（写真16）

○白井政吉氏家の裏の畑の隅で、東の方を向き、三鍬打って、ユズリハを立てる。これは、オトトの衆が通り過ぎたら行なう。「クワガオキル」といい、鍬を使い始める。

17:52 ○ズシが出る。安水茂徳氏、白井政吉氏の家から、タッガンサァーに上げられた白米（ハリオコシで縫った袋に入れた米）に、大根、人参、里芋、鶏肉、椎茸、オヤシ、ネギを一緒に炊いたズシと、大根と人参とサバのスナマスが出て、ショウホイ、伶人で食べる。

17:55 ○お茶が出る。

18:21 ○伶人である、仮屋栄光氏宅へ到着。

フッカブロ（二日風呂）

○仮屋氏が風呂に入る。これを、フッカブロと言って、池田の人達も「フロガオキル」と言って、これ以降、各家の風呂を使用してよい。以前は仮屋繁氏宅で行っていたが伶人役とともに氏が継いだ。

18:35 ○お膳が出る。スノモノ（猪肉、椎茸、カマボコ、人参、オヤシ）、ニシメ（鶏、厚揚、大根、人参、竹の子、椎茸）、ニマメ、スナマス、（鰤、大根、人参を酢であえたもの）

○サンゴン（三献）をとりかわし、次に焼酎を飲みながら、お膳を共食する。

一月三日

〔池田〕

6:20 ○ショウホイ、伶人が旗山神社に集まる。伶人（木下氏）が、オコシダイコを打ち鳴らし、人々を目覚めさせる。

7:12 若水汲み（写真18）

○伶人（仮屋氏）が、若水を汲みに、川南の境の川の上流に行く。若水を汲むための孟宗竹で作った小さなタンゴ（桶）で汲む。右手にシバを持つ。唱え詞なし。

7:20 ○神社に帰り、鳥居の右左の根本、カカリシバを結ぶ拝殿の柱五本、拝殿、本殿と順々に、若水を右手に持ったシバで清め、最後にカカリシバを清める。

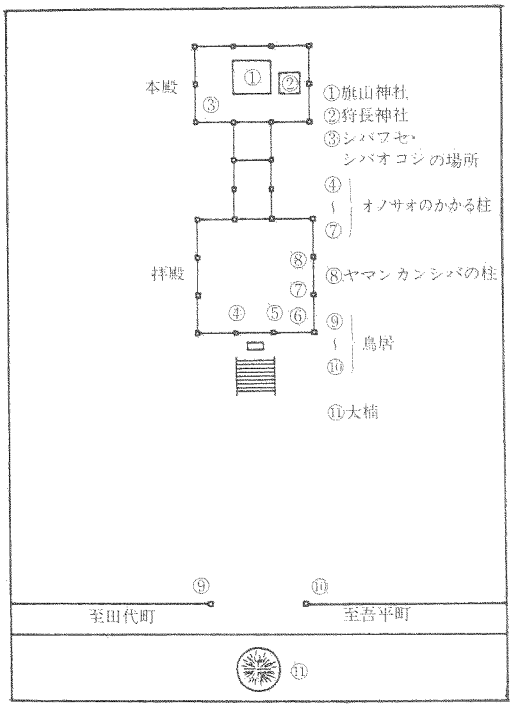
7:28 ○大祓いの祝詞を奏上する。

7:34 御戸開け

○ショウホイが、本殿に進み出て、「オー　オー　オー」と三声を発しながら御戸を開ける。

7:35 シバオコシ（写真19）

○三十一日に伏せたシバを、ショウホイが葉を表にする。これをシバオコシという。シバオコシは、三日に持って行くシバ、四日に持っ



旗山神社の図

て行くシバ、最後に、拝殿の柱に掛けるカカリシバの順に起こしていく。

7:36 ○ショウホイが、カカリシバを伶人（仮屋栄光）に渡す。仮屋氏がオノサオを掛ける柱から、ヤマンカンシバを掛ける柱まで順々にかける。シバは、葉の表面を外側に向けて藁縄で結ぶ。（写真20）

7:40 ○ショウホイ、本殿の社（左右の二社）からオノサオ（古い木面がついている）四本を出し、伶人（仮屋）、伶人（前迫）、伶人（仮屋）、伶人（前迫）と渡し、各柱のカカリシバの上に掛け結ぶ。（写真21）

7:43 ○ショウホイ、祝詞を奏上する。以上で、朝の神事を終え、ショウホイ、伶人、各自家へ帰る。

13:00 ヤマンカンシバ作り

○伶人（前迫）が、この日の午前中に採ってきた七種のシバ（椎、ユズリハ、ネズンノメサシ、ツタカズラ、トベラ、クチナシ、タツノハ）を、ショウホイが束ね、元をシオカズラで結わえ、ヒ（幣）をかける。

「山の神」「餅盗人」の像描き

○伶人（木下）が、半紙に「山の神」の像（女人の姿といふ）と、両手に丸餅を持った「餅盗人」の像を描く。

シシ作り

○伶人（仮屋）が、ワラズト（藁苞）を二本作り、それを割って、ユズリハ二枚を敷き、その上にシトギ（粢）を入れ、その上にユズリハ二枚をかぶせて、苞の中に包み込む。これをシシといい、一本はこの日コノサカに、外の一本は四日、高尾神社へ持っていくものである。

弓、矢作り

○三日のコノサカでのシシガリに用いる弓を二本、矢を四本作る。弓は長さ一五〇チセン太さ一・五チセンのニガダケを曲げて作る。矢は長さ一〇〇チセン太さ一・五チセンのニガダケの一端から二〇チセンのところから内側へ割り込みを作り、そこにユズリハを左右からはさみ込み、矢羽を作る。

13:23 ○作業がすべて終了する。その後、神社へ向かう。

○ヤマンカンシバを柱のカカリシバのところに結ぶ。（写真22）

13:53 神社での祭典開始